



清田区支部の現況 北海道医師会との関係

札幌市医師会清田区支部 広報部長
ひらおか公園小児科 院長
長 田 伸 夫

札幌市医師会清田区支部は、平成11年4月に発足しました。札幌市医師会11支部の中では一番新しくかつ一番小さな支部です。会員数は、約150名ほどです。現在3代目支部長の小野英夫先生を中心に活発な医師会活動を行っています。

各種講演会、市民向けの健康講座、会員間の親睦を深めるボウリング大会などの厚生事業なども盛りだくさんです。会員数が少ないということにはメリットもデメリットもあるわけですが…。会員間の交流はおのずと密になります。医師会活動まったくの素人状態である自分に対しても懇切丁寧にご指導いただいております。自分のような末端の会員でも執行部の先生方は、気軽に声をかけてくださるほどです。これもスモールスケール支部のメリットと思われます。

しかし一方で人手が少ないため一部の先生方に医師会の仕事が偏るということも事実です。医師会活動にかかわる会員を増やしていく必要はあるかと思えます。現在どの医師会もそうかもしれませんが、医師会活動にかかわっている会員とそうでない会員との医師会に対する見方（意識）はギャップが大きいと思われ、そのギャップをなくしていくことが当面の目標と思われます。

都道府県医師会は、郡市医師会と日本医師会との橋渡し役を担っている重要な団体です。北海道医師会は、札幌のような大都市医師会から郡部の小さな医師会まで網羅しています。医療環境も著しく違う医師会の要望や意見は、多岐にわたっており、それを集約し日本医師会ではほかの都道府県医師会代表と議論なされる北海道医師会の執行部の諸先生のご努力は並大抵でないと推察され感謝しております。

医師会は代議員制をとっているため、一般会員が直接北海道医師会と接するという機会は、なかなかありません。ですから身近にいる代議員の先生と密に連携し、意見や要望をくみ上げていただく必要を感じております。医師会を実際に動かそうとする意識を個々の会員が持つことが肝要であると思えます。



組織としての体を 保てるか

札幌市医師会南区支部 支部長
林下病院 院長
林 下 忠 行

参議院比例代表選挙は、支持政党の選択を行うという視点以外に、職域組織を代表する候補者を擁立するという意味合いがあることはいうまでもないことです。日医連委員長の横倉会長は、日本医師会の医療政策（国民医療の確保、皆保険体制の維持）を実現させていくには、政権与党から候補者を擁立すべきであると述べられております。

今まで、日医連が推した候補者は6年前、3年前と2連敗を喫していますが、3連敗となると、もう後はなく、全く政治力や発言力を失ってしまうことは自命のことです。医師会はさまざまな提言や意見を主張しています。それは正しい意見であったとしても、組織としての一体化、集票力がなければ、何を主張しても、地元の政治家をはじめ、誰からも相手にされなくなってしまいます。

低医療費政策をとり続けた結果として、地域での医療崩壊が起きました。国民に優しい社会保障制度、安定した医業経営が存続できるような診療報酬改定、消費税や事業税の取り扱い、TPP導入による国民皆保険崩壊阻止、医療への株式会社参入など、われわれの生活に直面した医療諸問題については、すべて政治の場で決まります。この参議院選挙の結果が診療報酬改定や消費税増税解消などの取り扱いを左右することになります。

今、われわれができることは、参議院選挙で、私たちの意向を理論的に代弁してくれる候補者を選び、高位当選での国会議員を誕生させることです。われわれの主張や意見が国政において、正しく伝わるように「意志」をはっきりさせなければなりません。

期日前投票制度を利用し、皆さんこぞって投票所に出かけて下さい。